

伝統の技を使い斬新な デザインの建具も開発

ものづくり県 愛知の基礎を築いた建具職

障子、襖、扉、窓、間仕切戸といった建具は住空間のなかで大切な役割を果たしています。ところが建具を「たてぐ」と読めない人が増えているそうです。木製建具よりもアルミ製品が多く使われるようになり「サッシ」という言葉に置き換わりつつあるからです。建具職は、かつては指物師と呼ばれ、江戸時代に全国に伝えられた指物の技術の元は尾張にあったといわれています。愛知県はものづくり県といわれますが、その基礎をつくった技の一つが木製建具であり、匠の文化と技を愛知県建具協同組合が受け継いでいます。

愛知県建具協同組合の母体になったのは昭和10年に設立された名古屋建具組合でした。その後、戦争をはさんで組合の名称や役割などの変遷はありましたが、昭和34年に愛知県建具商工業協同組合として再出発し、平成15年に愛知県建具協同組合に名称を変更しました。

あいち建具のブランド化に向けて

新設住宅着工件数が減り、加えてマンションなど

木製建具をあまり使わない住宅の比率が増えています。しかも21世紀に入ってから

環境問題、グローバル化、IT・情報社会の進展など、時代は大きく変化しつつあります。こうした中、建具職といえども伝統技術の継承だけではなく、時代のニーズにあったものづくりに応えていくことも大切になっています。同時に再生可能な木製建具が環境との共生を実現していく上で重要になっていることも広く訴えています。最先端科学であるナノテクのロジックやバイオ技術はコンピューターだけではなく、随所に匠の技が必要だといわれています。匠の技が受け継がれなくなれば、最先端技術であっても成り立たなくなる可能性があるのです。

平成22年から組合の中に「あいち建具研究会」を立ち上げ、地域ブランドとしての「あいち建具」の創出、実用的な新デザインの開発、伝統技術の継承及び営業・販売戦略の策定を通じた後継者の育成などの取り組みをおこなっています。さらに「木製建具振興大会」も開催し、木製建具のすばらしさのアピールにも努めています。



DATA ■愛知県建具協同組合

所在地：中川区尾頭橋四丁目13-6

- ・昭和10年：名古屋建具組合を設立
- ・昭和16年：愛知県建具工業協同組合に改組
- ・昭和18年：愛知県建具工業統制組合に改変
- ・昭和34年：愛知県建具商工業協同組合として再出発
- ・平成15年：愛知県建具協同組合に名称変更